

\*\*\*広報PJからのお願い\*\*\*

『南森界限歴史探訪散歩』についてのご意見、ご感想をお待ちしています。ご所属、お名前を記載の上、以下のメールアドレスまで投稿ください。

[info-shinsa@osa-kendo.or.jp](mailto:info-shinsa@osa-kendo.or.jp)

上記メールアドレスは◆を@に変更後お使い下さい

\*\*\*\*\*

掲載されている記事ごとに1 いいね 2 いまいちだね の選択投稿ができるようになっております。非常に簡単ですので多数のアクセスをお待ちしております。

PCの方は下記URLへ（スマホも可）

<https://forms.gle/3xu8cpk3ydo4h4Yj9>

スマホの方は、下記QRコードからアクセスできます。



従来のようにメールを利用されてもかまいません。

よろしくお願いします。

\*\*\*\*\*

【往路】第4回 北西コース 中崎町から事務所へ（1月戎祭の時期）

・新年おめでとうございます。南森界限歴史探訪 広報誌1月号をお届けします。内容は以下のようにとなっております。

・「第4回 北西コース 中崎町から事務所へ（1月戎祭の時期）編」

1月は大阪メトロの中崎町駅から、十日戎で賑わう堀川戎・寺町通りを経て、大剣連事務所まで、寒さを吹き飛ばすように、ご紹介します。前半は昭和レトロな雰囲気のある街めぐり、後半は江戸時代後半の雰囲気がする寺社めぐりです。年の初めに、堀川戎で福もらいましょう。あなたも散策してみませんか。

（柴田洋一 教職員クラブ）

## 第4回 北西コース中崎町から事務所へ

Vol.004

2026. 1. 1 発行

発行責任者 公益社団  
法人

大阪府剣道連盟  
広報PJ

# 南森界隈歴史探訪散歩

趣味で歴史散歩を研究している剣道と居合道を嗜む教職員クラブの柴田洋一先生に  
まとめて頂きました。皆様からの新しい発見、情報をお待ちしております。

### 4. 北西コース 中崎町から事務所へ（1月戎祭の時期）

《往路》①大阪メトロ中崎町駅→②本庄公設市場石碑→③本庄産院跡(浄法寺北側)



出典：国土地理院



→④済美公園周辺の古民家再生店舗群→(遠望⑤北野病院)→⑥綱敷天神社→⑦太融寺→⑧龍王大神  
 →⑨天満中学校(夜間)→⑩旧飛び込み台(公園南東口)・⑪堀川監獄跡  
 ・⑫扇町プール・⑬関西テレビ・大阪キッズプラザ・⑭大阪メトロ扇町駅→⑮扇町ミュージアムキューブ  
 →⑯綿屋橋→⑰旧天満堀川跡(扇町アンダーパス)→⑱堀川戎神社→⑲大坂三郷天満の境界道  
 →⑳成正寺の大塩平八郎墓所石碑・㉑妙福寺・㉒蓮興寺の大塩平八郎母方墓所→㉓浄土宗智源寺  
 →㉔天神橋三丁目商店街→㉕堀川児童公園前の曲がり道→㉖紅梅温泉  
 →㉗善導寺の山片蟠桃墓所→㉘天徳寺の篠崎小竹墓所→㉙栗東寺→㉚寶珠寺→㉛【大剣連事務所】  
 明けましておめでとうございます。

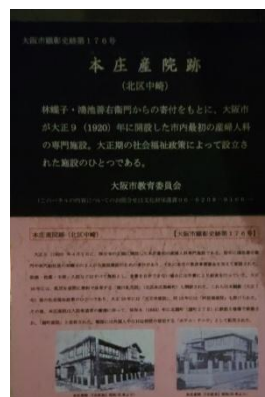
さて、新年1月は大阪メトロの①中崎町駅から、十日戎で賑わう堀川戎・寺町通りを経て、大剣連事務所まで、寒さを吹き飛ばすように、ご紹介しましょう。前半は昭和レトロな雰囲気のある街めぐり、後半は江戸時代後半の雰囲気がする寺社めぐりです。年の初めに、堀川戎で福もらおう。

さて、駅の1番出入口から地上に出て、中崎1丁目交差点を天五中崎通商店街のアーケードの西端を右手東側に見ながら、左手から90度南側へ、歩道のある道を進む。前方にJR大阪環状線の高架が見える。少し進むと、左手のスーパーサンコーの手前に②本庄公設市場石碑(北区中崎1丁目5-23)がある。

ここには1919(大正8)年9月5日、大阪市ではじめての公設市場が設けられた。背景は大阪市第2次公設市場拡張であった。その後、その数は43箇所まで増やされた。

設置の目的は、小売店舗の業務発展と市民生活の向上であった。

本庄公設市場は、当初、木造で40数軒が入ったが、1923(大正12)年7月27日に火災でほぼ焼失。その後、仮店舗で再開。1924(大正13)年12月1日新店舗で60店舗に拡大された。屋上には、稲荷神社が市場の守護神として鎮座し、社内には公設市場オープン時に大阪市より寄贈された八咫鳥(ヤタガラス)のブロンズ像が保存されている。



さて、市場の石碑の前を元の横断歩道に戻ろう。左手には、天五中崎商店街(おいでやす通り)西入口が見える。ここから東へ抜けると、前回11月号で取り上げた、天神橋筋商店街を経て、大阪メトロの天神橋筋六丁目駅へ行くことができる。

今度は、先程の交差点の横断歩道を渡って、駅の2番出入口から左手の路地を北側へ進むと、Y字型の三叉路に出た。その頂点がお寺の山門だ。お寺の名は浄万寺(中崎町2丁目3-26)。右手の堀沿いに進むと、③本庄産院跡(大阪市顕彰史跡第176号)の説明板を見つけた。ここ浄万寺北側に、1920(大正9)年、市内最初の産婦人科専門施設が設立された。診察・投薬・手術・入院等、無料であった。この政策は1918(大正7)年の米騒動後の社会福祉政策のひとつであった。この後、入院希望者激増に伴い、1933(昭和8)年に北扇町(扇町2丁目)に鉄筋5階建てで新築され、扇町産院と改称された。

つぎに、駅2番出入口から右手西側へ中崎町通りを渡る。渡った角の2階にバイオリンのお店(Musica

La Cetra)が見えた。中崎三丁目1の角から ECC アーティスト美容専門学校の前を通過、次の角から右手北側へ細い路地を少し入る。

この界隈は、北区中崎町西一丁目。1945(昭和20)年の大阪空襲で奇跡的に戦火を免れ、昭和の香りただようレトロな古民家や古い長屋が今も残る。ここが若者に人気のスポットだ。

この界隈のほぼ中央に位置する④**済美公園**(北区中崎西1丁目7)の東入口から入る。公園を取り囲む界隈に古民家再生店舗は点在する。中でも代表的な店舗は、済美公園北側から出て左手西側へ曲がった Salon de AManTo (サロンドアマント、中崎西1丁目7-26)。外観は植物で覆われ店名すら読み取れない。



このカフェは、中崎町の古民家再生カフェの草分け的な存在。2001年に築130年の古民家再生の過程を公開する「空き家再生パフォーマンス」で、延べ1100人のボランティアを集めて話題を呼んだ。店内は懐かしい雰囲気が漂い、靴を脱いでくつろげる座敷席などがある。バックグラウンドの異なる30人余の共同の店主がイベントを発信する。

仕掛け人はJun氏。錆びれゆく地域を若者と芸術的共同体へと見事再生した。幼いころから武道武術を習い、スタントマンから大道芸人を経て、いまは主にダンサー。世界を旅しながらお世話になった人々への恩返しとして店舗で活動する。

先程のカフェからさらに西側へ鍵型に路地を抜けよう。突き当たると、左手西側へ、次の角を左手南側へ進むと三叉路に出る。そこは左側の筋を選ぼう。右手西側の2階建ては、壁面がタイル張りの耐火構造だ。左手東側に紅白の幟が立つ白龍大神から東へ入ると、路地の途中や曲がり角にも店舗が見つかる。

このような古民家を再利用(リノベーション)した個性的な店舗が、いまでは100軒近くまで増えた。カフェ、雑貨店、レストランなどをはじめ、レトロな雰囲気を街並み散策とともに楽しむことができる。

右から読む看板は、まるで昭和にタイムスリップしたような錯覚をおこさせる。因みに、日本では横書きの左から読みは、明治の文明開化の際、欧米の横書きからの影響で始まったそうだが、統一されたのは1949(昭和24)年の政府通達がきっかけ。

南へ進むと、西側の大きなマンションの筋向かいには、葉村温泉があった。さらに南へ進み、右手西側の通りを眺めると、新御堂筋の高架が遠くに見えた。その道は、梅田方面への近道。その先を進めば、大阪能楽会館(中崎町二丁目3-17)や関西大学梅田キャンパス(鶴野町1-5)等に至る。

さて、さっきの道を南進しよう。するとJR大阪環状線の高架に出会う。左手東側は大阪メトロ中崎町駅4号出入口だ。左手東角には法秀山善徳寺(日蓮宗、中崎町西一丁目2-7)がある。

南へ横断歩道を渡ろう。横断歩道を渡り切った右手、駅3号出入口側の浪速ビル(北区万歳町4-12)のB1Fには、かつて南米のボリビア共和国名誉総領事館が入っていた。そのビルの東側の路地を南へ進む。歩き始めてすぐ左手東側にスーパーマーケットのライフ中崎町駅前店がある。トイレがあり、便利だ。すると、小さな三叉路に出る。左へ進めば⑤**北野病院**へ至る。今日は遠くから眺めて、右の道へ進もう。少し右へ曲がりながら、コンビニの左右に三叉路。左手は神山町15、右手は堂山町14。今日は三叉路付いている。

昨年度の2024(令和6)年に、重永瞬著『Y字路はなぜ生まれるのか?』(晶文社)が出版された。これによると、Y字路ができる要因から4つ、街道系・地形系・開発系・グリッド系に分類されるという。

さて、さらに南へ抜けると、次の辻から急に賑やかな飲み屋街に出る。右上の案内板に網敷天神社まで50mとある。辻の南側左手にある金光教扇町教会は、看板から設立が1909(明治42)年と知る。そのす



ぐ南側に⑥網敷天神社(あみしきてんじんしゃ、御本社)の鳥居が表れる。向かいの飲み屋街とは不釣り合いだ。ここは平安時代の『源氏物語』主人公・光源氏のモデルといわれる源融(みなもとのとおる、嵯峨天皇の皇子、822-895)ゆかりの地。神社の名の由来は、菅原道真(845-903)が、大宰府へ左遷される途中に立ち寄り、紅梅が咲いているのを鑑賞する際に、船の艫綱(ともつな)を丸く敷いて即席の円座にしたことから。最近では、ゴジラお守りは、映画でゴジラがミニゴジラを探して茶屋町を訪れて 30 周年を記念して、2024(令和 6)年 2 月 3 日から御旅所(梅田茶屋町 12-5)で授与が始まった。



神社の南側の道は、阪急東通第 3 商店街で、さらに南側で交通量の多い扇町通を南へ越えると、太融寺町から兎我野町に至る。太融寺交差点から南へ進み、堀に沿って⑦太融寺(真言宗、準別格本山、北区太融寺町 3)の山門をめざして南側へ回り込もう。創建は、821(弘仁 12)年、嵯峨天皇の勅願による。ご本尊の千手観世音菩薩は、嵯峨天皇の念持仏ともいわれる。さきに網敷天神社で述べた源融が、八町四面の広大な敷地に、七堂伽藍を建立して、多くの参拝者で賑わうようになった。「大坂三十三ヶ所観音廻り」は、ここから御霊神社(中央区淡路町 4-4-3)まで、西国三十三ヶ所廻りと同じご利益があると、庶民の間で大流行した。大晦日には、除夜の鐘つきには一般参加が可能で、朝から希望者で込み合う。西門右手には、源融の碑がある。南門前は、以前の回で紹介した小林佐兵衛が住んだ場所で、境内裏で剣術を練習したといわれる。その境内には、豊臣秀吉の後妻・淀君の墓がある。また、1880(明治 13)年 3-4 月に、自由民権運動の板垣退助が愛国社第 4 回大会の中で、国会期成同盟を発足させた場所でもある。

太融寺から南東側に斜めの道を交差点へ進むと、ライフ太融寺店が見えてきた。店の左手北側角に大きな銀杏の木があり、その下に⑧龍王大神がある。この地は、かつて太融寺の境内であった。



北へ進み、神山交差点を北へ渡る。角の駐車場越しに右手斜め前に校舎が見える。左手から回り込んで近づくと、道を挟んで左右のビルにはダンススタジオ。見えてきた学校の入口は右手南側にある。ここが夜間中学校で有名な⑨天満中学校。高齢者や外国人が読み書きや教科科目を学びに通う。

そこから、右手東側へ進む。すると扇町公園に出る。南西側の角に面白い遺構がある。かつてこの地に

あった大阪プールを記念した⑩旧飛び込み台だ。観客席が巨大な円形アーチ型で、当時最も観客収容数の多いプールとしてギネスブックに掲載された。

⑪大阪プールができた扇町公園の広い土地はかつての⑫堀川監獄跡。1882(明治15)年に造られたが、周辺が市街地化したため、1920(大正9)年に堺市に移転し、跡地が整備されて扇町公園となった。大阪プールは、老朽化のため1997(平成9)年に港区八幡屋公園に新築・移転した。公園の東側には、⑬関西テレビ・大阪キッズプラザがあり、地下で⑭大阪メトロ扇町駅と接続する。



公園南手に東西に延びる扇町通を地下駐車場出入口前の横断歩道で南側へ渡る。

⑮扇町ミュージアムキューブ(北区南扇町6-26)という大きな病院(医誠会国際総合病院)の中の右手東側に劇場入口、その左側向かいに無人コンビニ。6回目の下見は12月初め、夜に寒風が吹き、たまらず飛び込んだ。

劇場1階に左手南側に談話室マチソワがある。この場所は、スタッフがお客さんに話しかけ、話に耳を傾け、有機的につながる開放されたメディアとしてひっそりと佇んでいる。名前の由来は、劇場では昼公演をマチネ、夜公演をソワレから。意味は、昼と夜の間にお茶を飲み気軽に過ごすこと。営業時間マチネ13:00-16:00、ソワレ16:00-19:30。この場所は、ほかに日曜午前はそろばん教室、木曜午後は積読じかん(ワンドリンク制)、不定期で水引細工、カリグラフィー、点字に触れる、古事記を読み解こう等、イベント会場にも。カフェの向かいに映画や舞台関係の本棚、劇場事務室受付で舞台で使う箱馬ほか、いろいろな公式グッズも販売。M2階には扇町キネマ(映画館施設)がある。



キューブを出て、外側の北東階段を3階まで上り、東側の阪神高速道路の高架を眺める。地上に降りて、キューブの東壁に沿って、南へ進み、次の路地で左手東側へ横断歩道を渡ると⑯綿屋橋に至る。橋から北側下を眺めると⑰旧天満堀川跡(扇町アンダーパス)に車が走るのが見える。

もとのキューブ沿いの南北の道に戻り、南へ進むと鳥居が見えてくる。⑱堀川戎神社だ。年始1月の恒例行事、十日えびすでは大勢の人出でにぎわう。そのため、入り口は南側からの一方通行で、信号のある横断歩道も警備員の指示に従って渡る。お参りのひとは、頂いた福を落とさぬよう、寄り道せずに家路に



急ぐ。そのため、大阪メトロの南森町駅に通じる、神社から東への道が混雑する。



ちょうどこの東西の道が、江戸時代の町人地の北端、**①⑨大坂三郷天満の境界道**であった。神社側から横断歩道を東へ渡り切ると、この通りは寺町通で、先ほどまでの南北に交通量の多い堀川沿いとは急に雰囲気が変わる。お寺が東へと並び、比較的静かになる。

まず最初に現れるのは、讀誦山**②⑩成正寺**(じょうしょうじ、日蓮宗、北区末広町 1-7)。門を入って、右手に**大塩平八郎墓所石碑**がある。本堂右手には、中斎大塩先生墓、大勇院殿中斎日明大居士。右に息子の**大塩格之助君墓**、大義院土行日尚居士。左手に大塩の乱に殉じた人びとの碑。天保八(1836)年 2 月 19 日。

ここは、大坂大塩家 8 代目中斎大塩平八郎の菩提寺。今でも絶えず墓参が続いている様子。1976(昭和 51)年に、今まであった大塩の顕彰会が、新たに大塩事件研究会(連絡先 oshio.yomukai@gmail.com)として発足し、隔月程度、大塩平八郎に関する講演会やフィールドワークなど行われる。昨年 11.20-12.14 には、京阪電車なにわ橋駅のアートエリア B1(北区中之島 1-1-1)にて、「パネル展 大塩平八郎の実像にせまる」を門真市立歴史資料館等 3 者と共催でおこなった。

最近の幕末史では、幕末の開始を 1853(嘉永 6)年のペリー来航ではなく、1841(天保 12)年に老中水野忠邦が始めた天保の改革とする説が出てきた。幕政の行き詰まりを世間に知らせた大塩平八郎の動きは、時代の先駆けであったと再び注目され始めた。

右手のお隣は、ビルのような建物のお寺。詮量山**②⑪妙福寺**(日蓮宗、北区末広町 1-5)である。境内の右手に大きな南無日蓮大菩薩の石碑と、左手前に犬と狸の石像がある。

寺町通から南北の天神橋筋へ出る左手角を左へ曲がり北へ少し進むと、**②⑫蓮興寺**(日蓮本宗、北区末広町 1-35)がある。東の大通りに面した門右手に大塩家墓所の石碑、大塩平八郎母方墓所とある。

先ほどの角まで戻り、天神橋筋の交差点を東へ渡り、左手北向きに歩道を進むと、**②⑬智源寺**(浄土宗、北区天神橋三丁目 3-10)。その北西角には北向地藏尊が、自転車屋のまえにある。ここは、人に寄り添い、願いや悩みを聞き受けていただくという願いからあえて縁起の悪い方角に配された。病気回復や学業、縁結びに御利益がある。

ここから、東向きに進むと、**②⑭天神橋三丁目商店街**と交差する。辻の南東角には事務局長ご用達のお好み焼鉄板焼のひろ川がある。

そのまま、まっすぐ進む。この道は南同心町筋にあたる。しばらく行くと、**②⑮堀川児童公園**(天神橋三丁

目 4-22)前の曲がり道に出会う。ここは、前回の 11 月にご紹介済み。



道なりに進み、クリーニング屋の角を右手南側へ曲がり、つぎの辻まで進む。この辻を右手西側へ少し進めば、地元の銭湯・**26 紅梅温泉**(北区天神橋 3 丁目 1-25)に至る。今日は辻左角の東寺町ビルを左手東側に曲がる。歩道に目を落とすと、大阪歴史の散歩道を示す伝い石が埋め込まれている。しかも、灰青色の枠に逆卍の白字を配した、新しい伝い石だ。

この寺町通をまっすぐ、お寺の壁に沿って東向きに進む。その壁のお寺は、悟真山別格**27 善導寺**で、門前左手前に**山片蟠桃墓所**、三曲創始者幕末勤皇(王)志士 近藤宗悦居士墓所と石碑が立つ。門の柵はいつ通っても閉じられている。山片蟠桃(1748- 1821) は、江戸後期の町人学者。名前は、升屋の番頭だったことからつけられた。「蟠桃」は桃の一種で、中国神話では食べれば不老不死を授かるとされる。生家は播磨国(現兵庫県)の農家で豊かな在郷商人。13 歳のとき大坂の伯父の養子となり、大坂の両替商である升屋に仕え、1771(明和 8)年に 24 歳の若さで番頭となり、傾いていた経営を軌道に乗せ、繁盛させた。また、財政破綻した仙台藩を財政再建させ、升屋は大名貸しの金を回収し、1819(文政 2)年に幕府から表彰を受けた。升屋ではその功績を讃え、山片姓を与えた。その一方で学問に励み、晩年に失明後、当時、先進的な持論を展開した主著『夢の代』を完成させた。

天仙境**28 天徳寺**(曹洞宗、北区与力町 2-1)の門前左手に篠崎小竹墓所の碑。住職に一声かけると、気軽に中へ誘っていただいた。本堂左手西側から北側へぐると墓石が並ぶ。住職夫人の案内で、北側中央のひときわ大きな墓石が、**篠崎小竹墓碑**と分かった。近くには師匠の**篠崎三島墓碑**もある。篠崎三島(1737-1813)は、江戸時代後期の町人儒学者。玉水町(現西区)の両替商伊予屋の次男で、儒学の古文辞学(徂徠学)を修め、私塾**梅花社**(1776-1858、白子町、現西区)を開いた。また、片山北海(1723-1790)を盟主に頼春水・尾藤二洲らと詩社の混沌社を結び、中井家の懷徳堂(現中央区)と並んで大坂の学界に重きをなした。弟子の篠崎小竹(1781- 1851)は、豊後国の医師の次男として大坂に生まれ、9 歳で篠崎三島の梅花社に入門し、古文辞学を学んだ。13 歳で望まれて三島の養子となった。江戸幕府による**寛政の改革**(1787-1793、老中松平定信)が進む中、頼山陽に感化され、養家を抜け出して江戸に遊学し、朱子学者に転向した。その後、養父に詫びて梅花社を継ぎ、斉藤町(現西区内)に移して多くの門弟を育てた。





門前から東へ向かう歩道には、正方形のレンガ枠にレンガで卍字が見られる。これは歴史の散歩道の古い伝い石。

つぎは、寶樹山<sup>29</sup>栗東寺(曹洞宗、北区与力町 1)。その東壁を北へ向かうと、歩道が広く公園へ通じる。古地図を見ると、江戸時代には左から右への曲がり道があった場所だ。そういう目で見れば、普通の南北の筋より少し広く、曲がり道の最大幅を全面に道路にした感じだ。



次の角には天満寺<sup>30</sup>寶珠院(真言宗御室派、与力町一丁目)の向かいにある紅梅モータープールは昔懐かしのレトロな雰囲気。お寺の東側の交差点の青白ピンクの看板のコンビニと、うどん屋・めん坊の角を右手に南側に曲がる。

つぎの辻から右手西側に少し入ると、学校関係の日本学校図書株式会社、辻の左手東側の角にはコインランドリー。このあたりは、夕方、温泉のにおいがする。つぎの信号のある交差点を南へ渡れば、右手西側のビルの 5 階が<sup>31</sup>【大剣連事務所】で無事に到着できました。

さて、今回はいかがでしたか。次回は 3 月、JR 桜ノ宮駅から事務所への往路をご案内する予定です。前半は、桜並木の素晴らしい大川端沿って、後半は寺町通の東半分をめぐる予定です。